

■ベトナム：2011年以降も電力危機

国営電力グループ（EVN）の Dao Van Hung 会長は2010年9月22日、2011年以降も電力不足の可能性が高いと発表した。同会長によると、現在の総発電設備容量はIPPを含め1,900万kWあるが、そのうちの34%（約650万kW）を水力発電が占めている。しかし、ほとんどのダムで貯水量が大幅に不足しているため、2011年以降も電力不足になる可能性が高いとのことである。特に、北部の Hoa Binh 水力（192万kW）や南部の Ham Thuan & Da Mi 水力（47.5万kW）、Tri An 水力（42万kW）、Thac Mo 水力（15万kW）といった代表的な水力発電所については水不足により、ダム湖水位が回復するまで2～3年かかるとされている。また、Son La 水力発電プロジェクト（240万kW：40万kW×6基）にも影響が出ており、2011年4月に1号機の運開時期を延期せざるを得ない状況になっている。同会長は「政府方針により、長年にわたり電気料金を低く抑えてきたことで、新規の火力電源の開発ができなかった。7～8年前に手を打っておけば、現在のような電力不足の状態は避けられたはず」とコメントしている。